

2024 年 6 月 5 日

学校法人三幸学園
横浜医療秘書専門学校
校長 大石 進 殿

学校関係者評価委員会
委員長 垣野 裕

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 垣野 裕 (社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院 医事管理部 部長)
- ② 中嶋 和夫 (大成建設株式会社 横浜支店 営業部 営業課長)
- ③ 佐々木 康人 (飛鳥未来高等学校 横浜関内キャンパス キャンパス長)
- ④ 田上 正義 (社会医療法人財団互惠会 大船中央病院 情報管理システム課)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 5 日 (会場 横浜医療秘書専門学校 402 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 横浜医療秘書専学校専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 大川 正裕

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 垣野 裕 様

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

授業アンケートの改善

- 項目1 私語や居眠りがなく適切な授業環境だったか。 目標 3.48 ⇒結果 3.52 (4段階評価)
- 項目2 この授業は興味をひくものでしたか。 目標3.52 ⇒結果 3.56 (4段階評価)

⇒+0.04と微増ではあるが、分野平均を上回ることはできていない

地道に授業改善と教員への研修も実施していきたい

⇒年度初めに ICT 教育の一環で、カフォート(WEB上で可能なクイズ作成サイト)の使用研修を周知したことで、多くの教員が取り入れた教員も多く、飽きさせないための授業展開が出来た

⇒+0.04と微増ではあるが、地道に授業改善と教員への研修も実施していきたい

退学率

- 令和5年度 3.7% 令和4年度5.1% ※令和5年度 全国分野平均 8.2%

⇒大幅に退学低減となった

結果要因...放課後の授業サポート制度の実施(医事サポート、医学サポート)

⇒理解に時間のかかる生徒が増加したことで生徒に対し、寄り添い、安心できる環境を提供できた

② 学校関係者評価委員会コメント

(佐々木委員 医療秘書科・診療情報管理士科)

文科省の学習指導要領の変更に伴い、高校は全校生徒がICT 機器をもって授業に臨んでいる。PC・タブレットを用いた先端授業を行っているため、そういった授業を受けてきた高校生が専門学校に入学をしている。

飛鳥未来では質問したくても手を挙げられないという生徒も多く、WEB を通して手を挙げる、質問をする、討論をするような機会を設けている。

教室内で手を挙げることはできないが、カフートなど WEB を通して行うものについては参加するため積極的に授業に取り入れている。

(田上委員 診療情報管理士科)

在学中興味を引いたのは医学や薬学など専門的な授業。医療事務より興味があった。当時は詰め込み式授業が多かったがグループワーク等に行っていた。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

現場の実情、医療機関の方との生の声を生徒へ伝える
 事務分野の職業観や将来構想をイメージさせることが難しい
 リアルな現場を想定した、体験学習の機会を増やす

③ 今後の改善方策

各科において、医療現場の方のお話を聞く機会を増やす
 医療秘書科において、全国シミュレーション大会の実施
 ⇒医療現場の方のご指導を仰ぎ、リアル感のある現場をイメージし将来ビジョンの明確化

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

（濱崎委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

実習以外にも現場について教える機会があってもいいのではないかな。入職後2・3年後のイメージがつくといい。
 放課後授業サポートを利用して現場の実情を伝える機会を考えてもいいのではないかな

（垣野委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

実習だとお客様感覚なのでみんなが優しく対応をしてくれているかもしれない。

実情を学生の間を知る機会があってもいいが、知りすぎてしまうと現場へのモチベーションが下がってしまう可能性がある。

現場で活躍するには知識よりもどうやって育ってきたか（接遇力）が大事。患者さんの気持ちを汲み取ることができると現場では活躍する。

新卒の指導について最近の子は目的などちゃんと伝えてあげないと納得できない。現場では学校でどこまでやってきたかを聞いてから指導することを意識している

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

遅延による電話連絡の職員の業務のひっ迫
電話連絡のできない・苦手な生徒に対する連絡方法

② 今後の改善方策

遅延による電話連絡を撤廃 ⇒WEB 化
通常の欠席の場合の電話連絡を継続すべきか要検討⇒現場での実情を踏まえて、検討

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（中嶋委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

企業では欠勤する場合は上長へ電話連絡。BCP 訓練(防災の際の連絡経路)は ICT 化している。

（田上委員 診療情報管理士科）

勤務先での欠勤連絡は電話連絡だったが、電話が集中してしまうという理由から LINE 連絡に変更。
状況に応じて電話連絡をすることもある。

（濱崎委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

欠勤連絡は上長へは電話。今の学生は電話連絡が苦手ということだが、病院に入ったら電話を取ることが多くあるので電話への恐怖感は拭いてほしい。
現場での ICT 化として、いまは全職員 PHS を持っているわけではないが、将来的には全員 PHS をもって連絡が取れるようになるのではないかな。

（佐々木委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

通信制高校での指導について、情報によって、どのツールを使用して連絡するべきか4月に生徒・保護者に伝えて
いる。

飛鳥未来の生徒については電話連絡について抵抗がない生徒が多い。中には電話が難しい生徒もいるが、その
際は Google チャットを使うこともある。

電話が繋がらなかつたら Google チャットを入れるなど、本人と連絡をとる手段は検討している。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

常勤職員の若年化と異動者による業界への理解と知識不足
職員に向けた、医療現場の知る機会や研修を多く設けられていない

② 今後の改善方策

職場内での職員研修の実施
医療機関への訪問や勉強会の実施
職員の病院実習や見学等の実施

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(坂本委員 医療秘書科・診療情報管理士科)

職業理解について現場の現状を知ることは大切。

コンプライアンスの兼ね合いで学内での研修も大切だが、実際に外に出ることが一番勉強になるのではないか。

(垣野委員 医療秘書科・診療情報管理士科)

病院内の異動について、業務を超えた異動がほとんどない。

指導する先生たちにも知識として医療事務の検定内容などは知っておいてもらうといいのではないか。

医療事務業務で活躍するためには現場経験をして感覚を磨くことが大切。業務を円滑に進めるコツは日々の感覚値になってしまうので現場職員から業務内容を伝える、ということは難しいように感じることもある。

(濱崎委員 医療秘書科・診療情報管理士科)

現場でしか得られない情報や感じ取れない雰囲気があるためぜひ先生や生徒の皆さんにも見学に来てほしい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

卒業生の退職率調査や転職率の把握には至っていない
 在学中と就職後のギャップ

② 今後の改善方策

在学中と就職後のギャップを減らす為の授業の質向上
 卒業生向けの同窓会 SNS を通じて卒業生の動向を把握していきたい
 三幸グループ会社(クリエイト)による斡旋の機会があることの在学中の周知

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（田上委員 診療情報管理士科）

同級生と卒業後の連絡はあまりとっていない。仕事の連絡もたまに来るが、退職や転職について連絡を取り合うことは少ない。

同窓会 LINK についてはお知らせあったな、程度であまり理解していない。

（坂本委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

2019 年に 30 周年の同窓会があり、学校の繋がりを感じた。

卒業生が一同に会する場を企画するのがいいのではないかな。

（垣野委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

卒業生の転職について、現場の採用側としては病院を知っていることはかなり強み。

3年終わって4年目に差し掛かるタイミングで転職を考える職員が多い。3年乗り越えたら長く続けてくれている。

医師事務作業補助者は経験者から雇っているので、学校を通して就職斡旋することはいいのではないかな。

今年度の採用が診療報酬の関係で少し遅れたが、採用活動の方法や時期に大きな変わりはない。

（濱崎委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

病院によっては辞めた人の代わりに採用しているため毎年応募があるわけではない。

派遣会社への派遣登録している人の人数が減ったと聞いている。医療業界以外に行く人が多い。
企業説明会も中堅どころの人を連れていくため、高校生にも入職 2・3 年くらいの卒業生から話してもらうのが効率的なのではないか。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

卒業生に対しての転職サポートは十分ではない
退学者へのその後のサポートは十分ではない

② 今後の改善方策

卒業生向けの同窓会 SNS を活用し、三幸グループ会社の上級資格支援の告知を実施していきたい
即戦力の人材を必要としている医療機関へのヒアリング

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（垣野委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

途中で最短3日で退職。3年目くらいになると周囲の友達の話聞いて退職を考える人が多い様子。
3年で同期入職した人数が半分くらいになることもある。
自分の周りに医療事務関係者がいる職員だと長く残ってくれることが多い。

（田上委員 診療情報管理士科）

辞めたくて悩んでいると同級生から聞いたことはある。コミュニケーションが取れず退職を考えると聞くことがある。
在学中に社会人の実情を聞くとやっつけいけるのか不安になることもあった。

（濱崎委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

卒業後にずっと同じ病院にいるとは限らない。一番もったいないのは医療業界を離れて他業界に行ってしまうこと。
業界に長く勤められるようにサポートしたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

生徒へ向けた防災訓練が不十分である。

② 今後の改善方策

教職員への指導を行った上で、生徒へ周知をしていく(年度内)

生徒・教職員・地域住民を巻き込んだ防災訓練の実施を検討

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(坂本委員 医療秘書科・診療情報管理士科)

防災訓練は9月1日にやる企業や学校が多い。

学校事故でも実刑判決を受けた実情がある。学校現場としても有事への訓練をしておくことが必要。

AED の使い方については教員だけでなく、生徒も使えるようになるといいのではないかな。

(7)学生を受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適正に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

高校生への医療事務職への魅力と認知度を引き続き広めていきたい

② 今後の改善方策

卒業生イベント等を通じて、よりリアルな医療現場の声を聴く機会を設けることで認知拡大に繋げる

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（田上委員 診療情報管理士科）

診療情報管理士など、普段は触れることのない業務に触れるイベントがあったらいいのではないかな。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

継続して法令順守の推進

② 今後の改善方策

プロによるコンプライアンス研修を常勤メンバー全員実施することが出来たため、継続して実施することが必要である

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

地域連携（関内エリア周辺）の貢献が不十分である

② 今後の改善方策

地域活動、ボランティアへの積極的な参加をし、学校・専門学生の認知拡大をしていきたい

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（中嶋委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

企業の取り組みとして会社周りの清掃などを実施。

学校前に公園もあり、人通りも多いため清掃などをしてもいいのではないかな。

（佐々木委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

高校の取り組みとして地域の清掃活動に参加している。

（坂本委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

学校はソーシャルキャプテンと言われることも多い。人とのつながりがさらなる発展につながる

教室貸与なども地域貢献の一環。地域のニーズをくみ取るためにもなにか1つでも地域活動に参加してみるのはいいいのではないかな。

（濱崎委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

花壇の整備などをボランティアに依頼している。自治体には既に複数企業が連携しているためそこに参入すると地域との関係が発展していくのではないかな。

実習の時間の中でボランティア活動に参加するのもいいのではないかな。自分たちから繋がりを持とうとしないと地域交流は広がらない。

（垣野委員 医療秘書科・診療情報管理士科）

病院の地域交流として、患者のための〇〇教室、医療事務用の〇〇教室など内部への研修は行っている。

病院として外部に貢献していることとして、地域の防災訓練への人員派遣等がある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- 地域連携の強化

近隣住民の方との交流の場やボランティア活動等を通じて、医療校の認知拡大

医療従事者としての立ち居振る舞いを日々指導していく必要がある

地域貢献ができる機会を考え、積極的な参加が必要である

災害時の地域連携を図るべく、自治体の指導を仰ぎ周知する

- 卒業生への支援サポート

卒業生への就職定着率調査や退職を把握しきれていないことは課題である

卒業後も安心して、転職活動ができるフォロー体制があることを在学中に周知が必要